

入院児に学校の贈りもの

水俣病

専任教師が個別指導

一小的分校二つを開設

胎児性水俣病や内臓疾患で長期入院して学校にも行けなかった子供たちを教育する二つの小学校分校が、水俣市立病院に近く開校することになり、子供たちに明るい希望を与えている。

【第一小湯の児分校】市立病院付属湯の児リハビリテーションセンターに入院している胎児性水俣病の子供たちの中で、一応知能的に特殊教育が施されると思われる六人を対象に行なう。

教室は同センター敷き地内に工費約四百万円ですでに完成している。先生一人が担当して指導を行なう。これまで手足の自由がきかず知能も遅れて学校に行けなかった子供たちもこの分校の教室で勉強ができる。

【第二小浜分校】市立病院(本院)内の一室を工費約八十万円で教室に改装。同分校は内臓疾患などで半年から一年以上の長期入院治療を受けている子供六人を対象に先生一人が担当して指導する。

この子供たちは知能は普通児と同じなので、小学校の普通教育を学年ごとに個別指導する。病気で学校に行けなかった子供たちもク

ラスメイト同様に授業が受けられ
いずれも八日の始業式と合わせ
て開校する予定。